

きたる10月1日、「昭和55年国勢調査」が全国いっせいに終わります。国勢調査は大正9年、「文明国への仲間入り」を台言葉に第1回目が実施され、以後5年ごとに続けられて、今回の調査は第13回目に当たります。

国勢調査は、法令によって全国約三千八百万世帯、約一億七千万人の方々に調査票を記入していただくことになっています。9月24日から30日までの間に、約七十五万人、小須戸町では四十六名の調査員が、それぞれのお宅に調査票の記入をお願いいたします。

ママにもパパにも書いたね国勢調査

国勢調査

昭和55年10月1日(水)



ふだん住んでいる方全員が記入

調査票に記入していただくのは、皆さんのお宅にふだん住んでいる方全員——旅行などで一時留守にしている方、長期滞留在している方、生まれたばかりの赤ちゃんも含まれますのでご注意ください。下宿や間借り、長期入院して

いる方は、自宅ではなく、その場所へ記入していただきます。記入していただいた内容を他にももらしたり、統計を作る以外の目的に使うことは決してありませんので、安心してありのままの申告をしてください。10月1日から5日まで、調査員が調査票の取り集めに伺います。

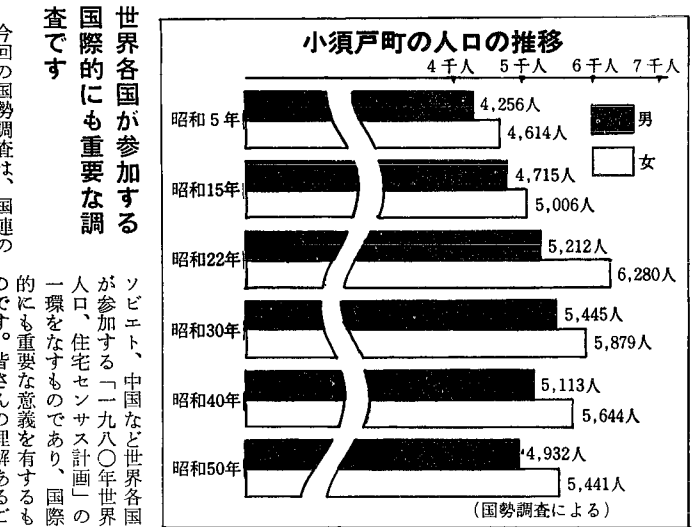
様々な問題を具体化し、その解決策を検討するための重要な調査です。

国勢調査は、法律に基づいて国が行う調査で、わが国全体の人口を正確に把握するためばかりでなく、都道府県や市町村ごとの人口、あるいは男女別、年齢別、産業別、職業別などの構成を明らかにするためのもので、とくに今回の調査は、高齢化社会といわれるわが国の実状、Uターン、Jターン現象といわれる人口移動の実態、さらに母子家庭、老人世帯などの把握に重点をおき、現在わが国が抱えている様々な問題を具体化し、その解決策を検討するための重要な調査です。

選挙人名簿の縦覧
(九月一日基準日)

九月一日で、新たに選挙権を有する人の定時登録選挙人名簿を、次により縦覧します。

一、場所 役場一階ホール
二、縦覧期間 九月十一日～九月十五日
三、対象者
◎当町に転入し、六月一日以前に住民届をし、登録された人。
◎昭和三十五年九月二日以前に出生し成人となった人。
※その他、基準日より四ヶ月以前に転出された人、基準日前に死亡された人等は抹消されます。(これは法律により一回名簿を調製するものです)



懸賞募集
新潟県の予想人口

県では、昭和55年国勢調査の新潟県の予想人口を、次の要領で懸賞募集を行います。

◎懸賞募集事項
昭和55年国勢調査による新潟県の常住人口
◎応募資格
新潟県内に居住する人に限る。

◎応募方法
①官製はがきで一枚に一点のみ記入
②数字は、算用数字で
③住所、氏名、性別、年齢職業(児童、生徒、学生は学校名と学年)を明記
◎あて先
郵便番号 九五二
新潟市学校町通一
新潟県企画調整部統計課
△しめ切り
昭和55年10月1日
(当日消印有効)
◎賞金及び賞品
1等 三万円 1人
2等 一万円 2人
残賞金 記念品 若干名

お年寄りと子供を交通事故から守りましょう

秋の全国交通安全運動

九月二十一日から三十日までの十日間、全国いっせいに秋の交通安全運動が実施されます。この機会にそれぞれの立場から安全運動に参加しましょう。

昨年一年間で五十四人ものお年寄りが県内で交通事故の犠牲になりました。お年寄りには、この車社会において交通事故から身を守る力は限られています。したがって、私どもは幼児と同じような配慮や、保護の手をさしのべお年寄りを交通事故から守りましょう。

一、安全運転の確保、特に無謀運転防止。
二、歩行者、特に老人と子供の交通事故防止。
三、自転車及び原動機付自転車の安全利用の推進

の三項目を重点テーマに秋の全国交通安全運動は国民総ぐるみで行なわれます。

◎ドライバーは
お先にどうぞの気持で運転。
この間の事故は「とび出し」、お年寄りの事故は「道路横断中」が事故原因の大半です。また、ドライバー同士でも交差点や追越しの際は「お先にどうぞ」の気持で運転。

歩く人は (特に子ども老人)

右と左の安全を確かめてからわたりましょう

斜め横断は後ろの車がわからず危険です

先にごうぞうとゆずり合い、安全を確かめる気持がたいせつです。

◎自転車を利用する人は
自転車の正しい乗り方を身につけましょう。自転車事故で多いのは交差点における右折時と一時不停止です。自転車に学校や幼稚園、保育園等に

◎家庭では
交通安全を語ろう。

車を運転する人は

子どもや身体の不自由な人には一時停止を

交通ルールやマナーを身につけて安全運転を

この間、お年寄りの事故は「とび出し」、お年寄りの事故は「道路横断中」が事故原因の大半です。また、ドライバー同士でも交差点や追越しの際は「お先にどうぞ」の気持で運転。

①踏切では人も車も必ず止まって安全を確かめましょう
②警報機やしゃ断機のある踏切では、警報が鳴り出したから絶対に踏切に入らないで下さい。
③踏切内で混雑して自動車が生じないよう、踏切先の交通状況をよく確かめて渡りましょう。
④複線区間の踏切では、列車が通過しても、すぐ踏切に入らず、隣の線路の列車を確かめて下さい。

9月21日から9月30日まで、秋の全国交通安全運動が実施されますが、最近、踏切事故が多発している状況です。次の点をじゅうぶんに留意して踏切安全通行につとめましょう。

おいても交通安全の指導はしていますが、家庭生活の場は実践指導の機会がたくさんあります。子どもに交通ルールが正しく身につくか、つかないかは家庭での指導が鍵です。

◎お年寄りには
敬老の気持を忘れず安全運転を。
お年寄りが道路を横断しようとしていたり渡っている時は赤信号のつもりで一時的に道路をゆずってやりましょう。

9月10日 交通安全家庭の日

食事時など家庭だんらんの機会をとらえ、交通のきまりなどをみんなで話し合いをしましょう。
「安全は家庭の中からしつけから」

交通事故のご相談は お気軽にどうぞ 無料でご相談に応じます

午前9時半～午後4時半(平日)
土曜日は正午まで
◎専門の相談員が親身になってご相談に応じます。
◎弁護士相談日：毎週水曜日午後1時～4時

社団法人日本損害保険協会
新潟自動車保険請求相談センター
新潟市本町通7番町1082 興亜火災新潟支店ビル5階
新潟調査事務所内
☎0252-25-1851(直通) 0252-25-2225
新潟通り本町角

⑥踏切内でエンストによる事故がふえています。踏切通過はギアはローのままギアチェンジをしないで通り抜けましょう。
⑦自動車が踏切上で動けなくなったときは、自動車を取り除くことよりも、先ず最初に次の方法で列車を止める手配をして下さい。
(1)非常ボタンのある踏切非常ボタンをカバの上から強く押して下さい。
(2)非常ボタンのない踏切 発炎筒または赤旗、布きれ(夜間は赤ランプ)等を列車に向かって振って下さい。
⑧いつも通る踏切は非常ボタンのある位置をあらかじめ覚えておくこと、万一のとき大変役に立ちます。